

**平成25年度 第1回 生駒市環境審議会  
エネルギービジョン策定部会 会議録**

- 1 開催日時 平成25年8月30日(金) 午前10時～午後0時10分  
2 開催場所 生駒市コミュニティセンター 2階 203・204会議室

3 審議事項

- (1) 部会長・副部会長の選任について  
(2) 生駒市の現況について  
(3) エネルギービジョンの構成案について  
(4) 今後のスケジュールについて  
(5) その他

(以下、敬称略)

4 会議出席者

|      |               |                |  |
|------|---------------|----------------|--|
| 部会長  | 島田幸司          |                |  |
| 副部会長 | 遊津隆義          |                |  |
| 委員   | 楠下孝雄          | 田中武            |  |
| 囑託員  | 豊田陽介          |                |  |
| 事務局  | 堀孝弘 環境経済部次長   | 岡田敏幸 環境政策課長    |  |
|      | 川島健司 環境政策課長補佐 | 阿部健一 環境政策課企画係長 |  |

5 傍聴者 1名

午前10時00分 開会

6 審議内容

- (1) 開会
- ・環境経済部次長 挨拶
  - ・事務局から委員等の紹介
  - ・エネルギービジョン策定の趣旨について事務局から説明
- (2) 審議事項
- 以下、発言要旨。

**事務局**

<委嘱後初めての会議により、事務局で議事を進行>

本日の会議の成立について報告。全委員5名のうち4名のご出席により会議は成立。傍聴者は1名。

案件1「部会長及び副部会長の選出について」について、事務局より島田委員に会長を、また、遊津委員に副会長をとの推薦をし、各委員に意見を求める。

**各委員**

(異議なしとの声あり)

**事務局**

環境審議会エネルギービジョン策定部会の部会長に島田委員、副部会長に遊津委員の決定を確認。

(島田委員、会長席に移動・着席)

**部会長**

ご推挙により、部会長を務める旨の発言。

挨拶として、需要があつてのエネルギーだが、需要側のことがわかっていない。淡路島近くの離島で太陽光を中心に実証実験を行っている。エネルギービジョンだが、エネルギーがどこで、どうして必要になっていくのかから始める必要がある。ロサンゼルスに行ってきたが、世帯ごとのエネルギー消費の大規模調査の結果、考えられないような低エネルギー消費のなかで快適な暮らしをしている人々がいることが分かってきた。少ないエネルギー消費で快適な生活ができないかという視野からも、討議を進めていただきたい旨期待する発言。

**部会長**

案件2「生駒市の現況について」について審議を宣告。

事務局に説明を求める発言あり。

**事務局**

事務局から、資料「生駒市の現況及びポテンシャル」に基づき、賦存量及び利用可能量を中心に説明。

**部会長**

委員からの質問、意見を求める発言。

**副部会長**

土地利用状況について、田、畑の遊休農地を利用した太陽光発電も計算してみてもとの発言。

**囑託員**

市内公共施設の太陽光発電システムの発電量が変動している理由はとの発言。

**事務局**

施設ごとの日照量、機器の劣化、読み取り機器の不具合等が考えられるとの発言。

**委員**

奈良市と生駒市の日射量、日照時間についての差はないのかとの発言。

**囑託員**

ほとんど差はないとの発言。

**副部会長**

風力の話聞いてがっかりした。農水関連の調査もしたが小水力もできそうにない。ただ、市民の感覚でシンボリックなものは作れないかとの発言。

**委員**

民生用、工業団地、商業地域とエネルギーの使い方の分析が必要。一戸建てについては太陽光発電が普及してくれば。北田原の工業団地は集中しているので自家発電、コージェネレーションで熱利用と電力利用ができるのではないかと。商業施設もまだまだ無駄なエネルギーがあるとの発言。

**部会長**

「家庭の電力見える化実験」について、世帯属性や消費特性は低炭素社会戦略センターからもらえるのかとの発言。

**事務局**

生駒市で10数件程度。他市でもやっているが、少なすぎて属性は分析できないのではとの発言。

**部会長**

一部の新興住宅地では急速にゴーストタウン化し利便性が低下している例もある。高齢者の一部が利便性を求めて都心に動いていく中で、どういう世帯構造になっていくのか考えなければとの発言。

**副部会長**

30年か20年後のあるべき姿をはっきりさせながらとの発言。

**委員**

生駒市は環境都市ナンバーワンを目指している。一戸建てが新築に変わっていくなかで、何割を太陽光発電にするか目標をたて、逆算して補助を行えばいいのではないかと。高齢者が駅近くの高効率のマンションに移って

くるなど、都市計画との関連もあるとの発言。

**副部長**

今までの計画は供給面から語られてきたが、需要面からも大事である。エネルギー需給率を100%にするのを目指すのか、少しだけ上げるつもりなのかによっても違う。市民サイドでやれるところ、行政がやる場所、あるべき姿が一番大事との発言。

**委員**

緊急用という意味で、ガス利用やコジェネの拠点も必要では。電力がストップしてもガスがあれば発電できる。イオンがガス空調を使った「町の安全ステーション」を行っているが、こういうのがあればいざというときにうまくいく。拠点作りとからんでくるのではないかなとの発言。

**副部長**

政策として、補助金を出す程度ではだめ。遊休地や耕作放棄地の規制緩和にどこまで踏み込めるか。もっと積極的にそのぐらやっておかないと、自給率100%は難しいのではないかなとの発言。

**部長**

2030年の生駒市の都市の姿からスタートして、エネルギーの使い方、供給の仕方を検討するのが本筋であろうが、この部会でその姿から描ききるのは難しいものがある。企画等の部局で、市の総合計画に2030年の姿などは提示されていないかなとの発言。

**事務局**

総合計画も同様に見直し時期であるが、人口フレームにドラスティックな変化があるという前提にしていない。次回までに人口フレーム、都市像などの情報を入手しますとの発言。

**嘱託員**

総合計画との関連は非常に重要。環境モデル都市やビジョンといった、訴えるものを提示して頂ければ。原発に対しても、脱原発、縮原発なのか。京都ではエネルギー京都を目指し、府の中でなんとか自給を目指している。日本海側のメタン利用など無謀なところもあるが、生駒市はどのような状態までもっていかうとしているのか。スマートコミュニティ制度も期待しているが、広域のバイオマスも奈良でポテンシャルがあるのではないかな。地域ごとに出てくる材を使いきるのは現実的ではないので、森林広域的にやる。例えばペレットや地域熱供給を奈良県内で広域的に連携できればとの発言。

**事務局**

奈良県での小規模ペレット生産については注目できるかなとの発言。

**副部長**

奈良県もバイオマスを何回か試行検討しているがうまくいっていない。県のエネルギービジョンには自給率目標もない。食品廃棄物系も可能性あるのでは。北欧の2~3万人規模の都市で全部の排水、生ごみを一括して処理しバイオガス化、エネルギーの50%を生み出している。生駒ではバイオマスに何か可能性があるのではとの発言。

**事務局**

愛媛県西与市は檜の一大産地でそれをもとにペレットを作っているが、市民にはあまり利用されていないようである。市役所や市内の温泉施設、農業用に使用されているとの発言。

**嘱託員**

オール電化はどれだけ入っているのか。消費量が違うので、効率的に熱供給をするために住宅と事業所の需要を組みあわせるという政策があり、効率的に行えば採算性もある。今後は需要の部分の管理やデータが必要との発言。

**部長**

エネルギーで難しいのは、時間変動や季節変動といったデータがほとんど

どないこと、との発言。

**副部会長**

工業団地のデータは知りたい。一般市民のデータは環境家計簿等で奈良県内で1,500人分ほど集まったが、事業系はほとんど皆無の発言。

**部会長**

工業団地はどんな業種があるのかとの発言。

**事務局**

機械、電気、印刷など、とくに決まった業種はないとの発言。

**委員**

80社程度あるとの発言。

**事務局**

10人程度の事業所がほとんどとの発言。

**副部会長**

一ついいモデルを作ればいいが、大きな小水力は無理か。温度差発電にも関心があるとの発言。

**委員**

生駒市のエネルギー源としては、生ごみや下水汚泥があり、最終的には発電できるのでは。剪定枝もバイオマス資源になるとの発言。

**部会長**

いくつかお貴重なご意見ありがとうございました。長期の議論をするので、大きな社会構造の変化があるだろうし、人口が思ったより早く減少しはじめた市町村もある。2030年の生駒市の姿、環境未来都市の姿を資料も少し整理しながら描いていきたい。広域連携で供給できるのかという議論も必要。次回に向けてデータの収集をお願いしますとの発言。

**部会長**

案件3「エネルギービジョンの構成案について」について審議を宣告。事務局に説明を求める発言あり。

**事務局**

事務局から、資料「(仮称)生駒市エネルギービジョンの構成イメージ(案)」に基づき説明。

**部会長**

委員からの質問、意見を求める発言。

**副部会長**

だいたいさっき言ったこととは一致している。あるべき姿が不明確で、自給率がないのが残念。太陽光発電に対する農地の規制緩和など、もっと前に行くような記述がほしい。市民の省エネ面においても、今後はスマートメーターの時代で、市民にはそういった実験に参加してもらえるようインセンティブも必要。環境教育面においても、正式なカリキュラムの導入が大事。人材育成もしなければならないとの発言。

**委員**

それぞれ市民が考える環境モデル都市の姿が統一されていない。ハード的にやっていくのか、ソフト的にやっていくのか。雨水浸透性の舗装など、都市計画的に涼しいまちづくりのやりかた、50年100年の計画があるかなと考えている。グリーンカーテンで日差しを遮って熱射を減らすなど。最低限のエネルギーでどれだけ快適な生活をしているか。目標のところであるが、CO2はどのぐらい減るかとの発言。

**事務局**

35%との発言。

**副部会長**

基準となる年度はとの発言。

**事務局**

モデル都市では2006年を基準年に行っているとの発言。

**嘱託員**

固定買取制度の半分以上はメガソーラー。固定買取制度がある状況の中では、太陽光発電が普及しないとは考えていない。目標値の30%はそんなに妨げではなくある程度すんなり行くのではと考えている。政策のリンクと言う事で、再生可能エネルギーの促進条例を作っているところがある。生駒市も検討されてはどうか。飯田市では基本条例から更に踏み込んでいる。地域の資源を地域で活用していく必要があるのではとの発言。

- 副部会長** 京都では再生可能エネルギーの導入を事業者に義務化しているのではとの発言。
- 囑託員** 一定以上の規模の業者に府市が条例で義務付けているが、量はたいしたことがないとの発言。
- 委員** あまり大規模にやると景観の問題がとの発言。
- 副部会長** 工業団地あたりは非常に前向きとの発言。
- 委員** 新しい建物を建設する場合には、屋上緑化するか太陽光発電の設置を促してはとの発言。
- 囑託員** 条例は難しいので、ガイドライン的にとの発言。
- 副部会長** 大いに賛成であるとの発言。
- 委員** 太陽熱とのハイブリッド型も検討すべきとの発言。
- 事務局** ドイツでは太陽熱発電機があるとの発言。
- 囑託員** カーボンオフセットをエコマネー制度とからめてはとの発言。
- 副部会長** ただこれまでの事例では、エコマネー、エコポイントともうまくいっていないのではとの発言。
- 囑託員** 国内の排出権取引制度がなくなった。Jバーなどが統合されればいけるかもとの発言。
- 副部会長** 大阪を中心として、欠点を補うような形でそういうものを復活させられないかとの発言。
- 部会長** 交通エネルギーについてあまり書かれていない。生駒市の自家用車通勤はどうかとの発言。
- 事務局** 市役所を中心に南北に長く、かなり送り迎えがあるとの発言。
- 副部会長** 奈良県のエネルギーにおいて交通(特にマイカー)は大きな分野であり、CO2削減の鍵を握る。交通ははずせないが都市構造にも関係し、対策が難しいとの発言。
- 事務局** 生駒市は南北は平らだが東西にすり鉢状になっており、自転車が利用しにくいまちになっているとの発言。
- 部会長** エネルギーの範囲に軽油などは入っているかとの発言。
- 事務局** 入っていますとの発言。
- 部会長** もう少し施策の柱に交通系があればバランスがとれると思う。お気づきの点があれば事務局にお伝えくださいとの発言。
- 部会長** 案件4「今後のスケジュールについて」について審議を宣告。  
事務局に説明を求める発言あり。
- 事務局** 事務局から、資料「生駒市環境審議会 エネルギービジョン策定部会スケジュール(案)」に基づき、次回以降のスケジュールを説明。
- 部会長** 委員からの質問、意見を求める発言。
- 事務局** 次回以降の日程調整を求める発言。
- 部会長** 10月3日木曜日、15:00から。構成案について、事務局に10日以内でご連絡いただければとの発言。  
策定部会の審議を終了する発言。  
策定部会の閉会を宣告。

午後0時10分 閉会